ルギッシュに人生の炎

ダイナミックかつエネ

しい社会』を拝読し

ど感謝してくれた人は

に参加し、数々の事 していこうと学生運動 中をなんとしてもよく ていただき、この世の 初から最後まで読ませ

滝瀬さん

工藤議員

いない。協同労働、労

出したが、永戸さんほ

伝(『協同労働がつくる 市長 (発起人) は、「自 ら弔電。小野克典桶川

の議員生活でいろんな

(発起人)が「23年

人に頼まれて意見書を

大島敦衆議院議員か

た実績と功績は多くの

人々の心に深く刻まれ

農家の滝瀬副次さん

えていたような方向に

佐藤議長

世の中が永戸さんが考

進むことが、平和で発

国家の損であります。

を亡くしたことはこの

出る思いだ」「永戸さん

山本代表

ことがわかって、涙が

く展開していただいた 業、運動を休むことな

成功へ導いてくださっ

る」と弔辞

受けた」「地域おこし名 んの生きざまに感銘を を燃やし続けた永戸さ

> 時代の地域づくり、新 時代の働き方、新しい 働者協同組合が新しい

へ・達人サミットを大

# 地域をに備いまサミット後、地域に根付



### 滝瀬塾、紅花P J、ポールウォーク桶川界隈

連帯機構代表理事だった永戸祐三さんを偲ぶ会が開かれました。な お、労協連などによる偲ぶ会は12月13日に開かれます。(本紙 記録映画も上映。来年、静岡県掛川市で開くサミットの成功を誓い合 かれました。サミット後に立ち上がった活動が報告され、サミットの いました。引き続き、7月16日に急逝したサミット発起人で日本社会 人・達人サミット」実行委員会が8月31日に北本市文化センターで開 昨年11月に開いた埼玉県桶川市、北本市での「第6回地域おこし名 松沢)

#### 市に感謝状 記録映画上映も

たに日本社会連帯機構 実行委員会では、新 幸司さんがあいさつ。 代表理事になった山本

桶川市、北本市への感

ている」と。

映。協力をいただいた に続いて記録映画を上 森康行監督のあいさつ が有機農業の現状を知 ために、まず自分自身 され、いろどりの輪北 る様子がスライドで流 変さを身をもって感じ たいと思い参加させて り、作り方を体で学び 食を実現したい。その 本支部代表、佐向響さ いただいた。農業の大 んが「オーガニック給 んの農地に小屋を建て った団体が活動報告。 滝瀬塾」は、滝瀬さ

ミットを機に立ち上が どれぐらいの大きさに りあえず1年間、10日 若菜を学校給食に出し としての可能性も探ろ 使うだけでなく、食用 なったら採ればいいの おきくらいに作業し、 うと4人でスタート。 は、紅花を染料として ていたこともあり、と 「紅花プロジェクト

## 社会連帯桶川

連帯桶川・北本ネット ミット後継組織「社会 ワーク」を11月に設立 実行委員会では、サ

ともなった『協同労働 や頑張っていこう」と 呼びかけました。 内洋育社長が「永戸さ を出版した旬報社の木 んの思いはこの本の中 がつくる新しい社会 永戸さんの「遺書

う。多くの方に読んで とめた松沢常夫労協新 聞前編集長が「永戸さ ビューをもとに本をま に込められていると思 ご参加を」とあいさつ。 日のシンポジウムにも いただきたい。9月12 永戸さんへのインタ

日

開式の言葉を述べ、黙

定を求める意見書」を 組合法の速やかなる制

き、私は全く尊敬をし

山本幸司代表が「永戸 さんとは政治的立場は

日本社会連帯機構の

にお話をしていただ

ておりました」「本も最

起案した工藤日出夫市

本

ンター事業団埼玉事業

本部の成田誠本部長

会の「協同労働の協同 て採択された北本市議

ず、飾ることなく、直 弟みたいに、偉ぶら 日は浅いが、本当に兄

ると。

(サミット発起人) が

労

会「愛すべき思い出と

永戸祐三さんを偲ぶ

た」とメッセージ(樋

サミット実行委員会が

永戸祐三さんを偲ぶ会

口悟史副市長代読)。

んとのお付き合いは、

け継いで後世に残して はないか。少しでも受 展していく一番の源で

を実現する取り組みの

同志に出会ったという

にしたい、という思い

えたい、誰もが人間ら

本当の意味で社会を変 かなり違っていたが、

しく生きていける社会

いくことをお約束す

思いが強くある」と述

(発起人) は「永戸さ

続いて、全国で初め

ともに」では、労協セ

協

新

永戸さんが目指し

るの

は

前へ

だ

に、とにかく明るく楽 る。永戸さんが言って 史が終わり本史に入 同労働、労協運動の前 なまちづくりのため いたように、持続可能 べ、「労協法ができ、協 しく、わいわいがやが

「私もしっかり自分の思いを力にして、一歩を踏み出し、し っかり生きていくつもりです」とあいさつする永戸百代さん 場のおじさん、おばさ ち上げた時、『清掃現 取って直轄事業団を立 理事長とはどういう関 んたちと、自分や中西 んは東葛病院の仕事を

す。 れるのかなどを調べな か、どの程度の量が採

川界隈」は北鎌倉を散 がら取り組んでいま りました。さらに交流 る所もあり交流が始ま 策。紅花を栽培してい 「ポールウォーク桶

負が語られました。 を広げていきたいと抱

## ・北本」11月設立へ

藤洋、島野正紀の両氏 することを確認し、佐 会を発足させました。 を共同代表とし、準備

談の後、永戸さんの妻、

っかり生きていくつも

顧問の音頭で献杯。懇

事業本部の島野正紀

分の思いを力にして、

歩を踏み出して、し

からだと思う」と指摘。 のままだったが、永戸 う・雇われる関係。 はそ 自主生産企業も、ア雇 問う。それまでの事業 ター事業団総代会での 当に主体者、主人公に を持った。労働者が本 さんだけがそこに疑問 なることを求めていた 団も争議団がつくった 水戸さんの最後の言葉 そして、6月のセン

まりにあっけなく逝っ たせておりました。あ も必ず帰ってくること を信じ、自らを奮い立 「病と格闘する中で

労働者の解放とは

使ってくれるとありが か。そのための勉強の る存在になれるかどう をもたらすか。そうい 労働の自由を自分で獲 掛け値なしに実行でき う100年を考えたセ 得することだ、と思っ 1つの材料にこの本を ンター事業団の役割を くなら、どういう効果 格的に全世界に行き届 た時に、協同労働が本 は何度も口にしていま と振り返り、「しかし」 が何よりも無念であり く考え、自らの思いを 残すことができまし の本も皆様のおかげで 方がありません。本人 てしまって、無念で仕 力にして生きる。』永戸 た。『主体者としてよ と、こう語りました。 悔しく辛そうでした」 した。私もしっかり自

「永戸祐三の集大成

い』と、聞き入れませ 声の方がよっぽど大き んでした」に参加者は での電話。『看護師の たび注意を受けた病室 からはずっとベッドの 白代さんがあいさつ。 本人ではなく<br />
私がたび 一。看護師さんから、 「6月に再入院して りです」 最後に桶川市議会の

す」と述べ、閉会しま ということをおっしゃ どうやってやるんだ』 ら、前へ進めるために ているのは。前へ、だ。 が「永戸さんの目指し 佐藤洋議長(発起人) えて最後の言葉としま 頑張ると永戸さんに伝 ト成功のために精一杯 来年の静岡でのサミッ っているように思う。 『過去はいい。お前

そうでないとすればど シンポジウム 『協同労働がつくる新 しい社会』から何を学 び、未来を拓くのか



分連合会館(地下鉄千代 田線新御茶ノ水駅 B 3出 口すぐ)

汐見稔幸(東京大学)、池山吉 之助(興和ビルメンテ)、田中 羊子(労協センター)、山本幸司 (社会連帯機構)、佐高信(評論 家)、古村伸宏(労協連)、永 戸百代さん他

ういう関係なのか」と 佐高さんのXから てしまったが、そのユ ンポジウムには私も参加する。 ーークな運動は確実に未来を拓くものだ」 永戸は先日亡くな